令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

海南市教育委員会

1 調査結果の公表にあたって

全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的に実施しています。しかし、本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の成果の一側面にすぎません。本市としましては、本調査の結果から得られた全国の状況等を参考にしながら、今後の教育施策を講じるための一つの指標と捉えるとともに、各学校における学習指導の充実・改善、児童生徒一人一人の学習状況の改善等につなげてまいります。

2 調査の実施状況

(1) 調査実施日 令和6年4月18日（木）

(2) 調査の対象学年（本市での実施学校・児童生徒数）

- ・小学校第6学年（12校・321人）
- ・中学校第3学年（7校・268人）

(3) 調査の内容

① 教科に関する調査

- 小学校調査・・・国語、算数
- 中学校調査・・・国語、数学

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・学習意欲や学習方法、学習環境、生活の諸側面などに関する内容

(4) その他

- ① 本調査は、対象となる学年が限られており、本年度は、実施教科が小学6年生では国語、算、中学3年生では国語、数学の2教科であること、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要です。また、今回示した数値は調査結果のすべてを表すものではありません。
- ② 今後の指導に生かすため、市全体の結果から見たそれぞれの教科や質問紙の概要、今後の取組についてなどを併せて記載しています。

3 教科に関する調査の結果

【小学校】

(1) 平均正答率 ()内は全国比

	国語	算数
海南省	70.7 (+3.0)	67 (+3.6)
和歌山県 (公立)	68	64
全国 (公立)	67.7	63.4

※ 自治体別の平均正答率は小数点以下を四捨五入し、整数値で示されていますが、海南省の結果は各設問の平均正答率をもとに計算し、独自に小数点まで算出しています。

(2) 各教科の概要

① 国語

i) 学習指導要領の領域別正答率

	国語		
	海南省	和歌山県	全国
話すこと・聞くこと	63.3	58.7	59.8
書くこと	71.0	66.5	68.4
読むこと	71.5	69.9	70.7
言葉の特徴や使い方に関する事項	68.5	66.7	64.4
情報の扱い方に関する事項	90.0	87.5	86.9
我が国の言語文化に関する事項	79.8	76.4	74.6

・すべての領域において、正答率は全国平均値を上回る結果となった。

ii) 全国との正答率と比較した特徴

話すこと・聞くこと (全3問)

- ・平均正答率 63.3% (全国との差 +3.5%)
- ・自分の考えが伝わるような表現の工夫についてよく理解している。
- ・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することを問う問題の正答率が高い。

書くこと (全2問)

- ・平均正答率 71.0% (全国との差 +2.6%)
- ・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして伝えたいことを明確にできるかどうかを問う問題の正答率が高い。

読むこと (全3問)

- ・平均正答率 71.5% (全国との差 +0.8%)
- ・人物像を具体的に想像することができるかを問う問題において課題がある。
- ・表現の効果を考えることについて問う問題の正答率が高い。

言葉の特徴や使い方に関する事項 (全4問)

- ・平均正答率 68.5% (全国との差 +4.1%)

情報の扱い方に関する事項（全1問）

- ・平均正答率 90.0%（全国との差 +3.1%）
- ・原因と結果など情報と情報との関係についてよく理解している。

我が国の言語文化に関する事項（全1問）

- ・平均正答率 79.8%（全国との差 +5.2%）
- ・読書に関する内容についてよく理解している。

② 算数

i) 学習指導要領の領域別正答率

	算数		
	海南省	和歌山県	全国
数と計算	71.4	67.4	66.0
図形	68.2	65.8	66.3
変化と関係	53.8	52.0	51.7
データの活用	63.2	61.9	61.8

ii) 全国の前答率と比較した特徴

数と計算（全6問）

- ・平均前答率 71.4%（全国との差+5.4%）
- ・計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答を式や言葉を用いて記述する問題の前答率が高い。
- ・除数が小数である場合の除数と商の関係について理解できている。

図形（全4問）

- ・平均前答率 68.2%（全国との差 +1.9%）
- ・球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉える問題の前答率が低い。
- ・角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を説明する問題の前答率が高い。

変化と関係（全3問）

- ・平均前答率 53.8%（全国との差 +2.1%）
- ・速さの意味について理解できているかを問う問題の前答率が高い。
- ・速さが一定であることを基に道のりと時間との関係を考察する問題の前答率が低い。

データの活用（全4問）

- ・平均前答率 63.2%（全国との差 +1.4%）
- ・円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問題の前答率が高い。
- ・折れ線グラフや表から必要な数値を読み取り、条件に当てはまるように説明したり、式に表したりすることに対して課題がある。

【中学校】

(1) 平均正答率 () 内は全国比

	国語	数学
海南省	58.7 (+0.6)	53.8 (+1.3)
和歌山県 (公立)	55	50
全国 (公立)	58.1	52.5

※ 自治体別の平均正答率は小数点以下を四捨五入し、整数値で示されていますが、海南省の結果は各設問の平均正答率をもとに計算し、独自に小数点まで算出しています。

(2) 各教科の概要

① 国語

i) 学習指導要領の領域別正答率

	国語		
	海南省	和歌山県	全国
話すこと・聞くこと	57.7	54.1	58.8
書くこと	67.2	61.7	65.3
読むこと	49.3	44.5	47.9
言葉の特徴や使い方に関する事項	58.7	56.5	59.2
情報の扱い方に関する事項	58.4	56.5	59.6
我が国の言語文化に関する事項	81.7	74.2	75.6

ii) 全国の前答率と比較した特徴

話すこと・聞くこと (全3問)

- ・平均前答率 57.7% (全国との差 -1.1%)
- ・話合いと話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることを問う問題の前答率が高い。
- ・資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかを問う問題の前答率が低い。

書くこと (全2問)

- ・平均前答率 67.2% (全国との差 +1.9%)
- ・自分の考えが伝わる文章になるような工夫を問う問題の前答率が高い。

読むこと (全4問)

- ・平均前答率 49.3% (全国との差 +1.4%)
- ・目的に応じて必要な情報に着目して要約する問題の前答率が高い。

言葉の特徴や使い方に関する事項 (全3問)

- ・平均前答率 58.7% (全国との差 -0.5%)
- ・漢字を正しく書く問題 (満ち足りた) は前答率が全国平均を上回っている。
- ・文の成分の順序や照応について問う問題の前答率が低い。

情報の扱い方に関する事項（全2問）

- ・平均正答率 58.4%（全国との差 -1.2%）
- ・情報と情報との関係を理解することに課題がある。

我が国の言語文化に関する事項（全1問）

- ・平均正答率 81.7%（全国との差 +6.1%）
- ・行書の特徴を問う問題の正答率が高い。

② 数学

i) 学習指導要領の領域別正答率

	数学		
	海南省	和歌山県	全国
数と式	53.5	48.3	51.1
図形	39.4	36.7	40.3
関数	62.4	57.8	60.7
データの活用	55.3	52.6	55.5

ii) 全国の前答率と比較した特徴

数と式（全5問）

- ・平均正答率 53.5%（全国との差 +2.4%）
- ・文字を用いた式で表したり、等式を目的に応じて変形させたりする問題の前答率が高い。
- ・数学的な表現を用いて説明することに課題が見られた。

図形（全3問）

- ・平均正答率 39.4%（全国との差 -0.9%）
- ・回転移動についての問題は前答率が高い。
- ・筋道を立てて考え証明をしたり、問題解決の過程や結果を振り返り新たな性質を見いだしたりする問題の前答率が低い。

関数（全4問）

- ・平均正答率 62.4%（全国との差 +1.7%）
- ・一次関数について、式とグラフの特徴を関連付ける問題の前答率が高い。
- ・事象を数学的に解釈し、数学的に説明することに課題がある。

データの活用（全4問）

- ・平均正答率 55.3%（全国との差 -0.2%）
- ・複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較する問題の前答率が低い。

4 質問紙調査の結果

全国学力・学習状況調査では、教科の調査のほか、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査があります。この質問紙調査では、児童生徒の学校や家庭における学習状況や学校での学習の様子が分かります。

※ 表中の海南市の数字は、「当てはまる（よくある）」「どちらかといえば当てはまる（ときどきある）」等の肯定的な回答の割合

※ 比較は、海南市と全国との割合の差（海南市 - 全国）を表す

(1) 基本的な生活習慣

質問事項	小学校		中学校	
	海南市	比較	海南市	比較
朝食を毎日食べていますか	95.7	+2.0	94.1	+2.9
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	84.4	+1.5	79.9	-0.8
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	94.8	+3.2	92.9	+0.4
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか（2時間以上）	50.2	+1.0	53.1	+4.2
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）（2時間以上）	32.7	-1.1	60.6	+4.7

(2) 規範意識、自己有用感等

質問事項	小学校		中学校	
	海南市	比較	海南市	比較
自分には、よいところがあると思いますか	84.4	+0.3	85.9	+2.6
将来の夢や目標を持っていますか	81.3	-1.1	65.4	-0.9
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	87.8	-2.1	91.1	+0.7
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	94.2	+2.5	91.1	+1.3
人が困っているときは、進んで助けていますか	96.0	+3.3	90.7	+0.6
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	99.1	+2.4	98.2	+2.5
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	97.9	+2.0	97.1	+1.9
学校に行くのは楽しいと思いますか	88.7	+3.9	88.5	+4.7
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	81.7	+5.9	78.0	+1.8
友達関係に満足していますか	92.0	+0.9	93.3	+3.2

(3) 学習習慣等

質問事項	小学校		中学校	
	海南市	比較	海南市	比較
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む：1時間以上）	51.4	-3.2	58.4	-5.9
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む：1時間以上）	47.0	-1.6	47.6	-15.4
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	83.8	+3.1	82.9	+4.3
あなたの家には、およそどれくらい本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く：101冊以上）	31.2	-2.5	21.1	-7.2
新聞を読んでいますか（週に1回以上）	7.6	-4.0	5.2	-2.1

(4) 地域や社会に関わる活動の状況

質問事項	小学校		中学校	
	海南市	比較	海南市	比較
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	89.0	+5.5	81.4	+5.3

(5) ICTを活用した学習状況

質問事項	小学校		中学校	
	海南市	比較	海南市	比較
5年生（中学2年生）までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか（週3回以上）	75.2	+15.7	75.9	+11.5
5年生（中学2年生）までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	89.0	+3.5	82.6	+2.4
5年生（中学2年生）までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	89.9	+3.8	89.6	+3.4
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（30分以上）	36.1	-8.1	24.1	-12.3

5 今後の取組について

令和6年度全国学力・学習状況調査における本市の各教科の状況については、すべての教科において平均正答率が全国及び県を上回っていることから、概ね良好な結果であるとともに、学習の成果が現れていると捉えています。しかしながら、学習指導要領の領域別の正答率を見てみると、全国の平均正答率を下回っている内容もあります。

令和2年度より小学校において、令和3年度からは中学校において新しい学習指導要領が全面実施となっており、今後は、子供たち一人一人に対し、基礎的・基本的な知識・技能の習得はもちろん、それらを活用して課題を見だし、解決するための思考力・判断力・表現力などや、学びに向かう力・人間性等幅広い学力を確かに身につけさせることが必要です。また、一人一台の学習端末を有効に活用し、創意工夫ある、魅力ある授業を展開することが求められています。すべての子供が「できる・分かる」喜びを持てる学びを形成できるよう、個別最適な学びと協働的な学びを一体

的に充実させ、授業改善に継続的に取り組むことが重要であると考えています。

そのため、全国学力・学習状況調査から得られる結果等をさらに分析し、子供たち一人一人の学習状況の把握はもとより、一層きめ細かい指導を進めていくことが大切であると捉えています。

なお、基本的な生活習慣の確立、規範意識・自己有用感の醸成、家庭学習のあり方、地域や社会参加への意識高揚などについては、家庭や地域の皆様方の御理解と御協力をいただきながら、より充実させていくことが求められます。

教育委員会としましては、今後とも、各学校の学力向上に向けた取組を支援するとともに、教育施策の充実を図り、子供たちの可能性を広げる教育の推進に努めてまいります。

また、各学校においても、自校の状況及びその分析結果、改善方策等を保護者等に説明することとしております。